

銚子市および神栖市の小・中・高校生のペット飼養に対する意識調査

— II. 野良犬、野良猫の現状と飼い主のモラルについて —

The questionnaire survey on the awareness of pet animal care to school children and students in Choshi City and Kamisu City

— II. The current situation of stray dogs and stray cats, and the moral of pet-owners —

内川 隆一¹⁾・神田あゆみ²⁾・古口 美雪²⁾・森 奈津子²⁾
菅原 裕²⁾・棟方 早紀²⁾

Ryuichi UCHIKAWA, Amumi KANDA, Miyuki KOGUCHI, Natsuko MORI
Yu SUGAWARA and Saki MUNAKATA

千葉県銚子市および茨城県神栖市内におけるペット飼養の実態並びに飼育者の意識を知る目的で平成23および24年の6月から7月にかけて千葉県銚子市および茨城県神栖市内の学校に通う小学校5年生、中学校2年生、高校2年生を対象として「ヒトとペットに関するアンケート」を実施した。本報では調査結果のうち、野良犬・野良猫の現状と飼い主のモラルを中心にその結果を報告した。銚子市・神栖市には野良犬・野良猫が多く存在し、学童・生徒の半数が頻繁に野良犬・野良猫を目撃し、その1/4以上が嫌なことをされた経験を持っていた。銚子市では野良猫が、神栖市では野良犬がより頻繁に目撃されていた。また、県のセンターに収容された動物の多くは殺処分されていることを多くの学童・生徒は知っていたが、実際に処分される犬猫の数を正確に認識している人の割合は低く、具体的な情報として十分に伝わっていなかった。飼い主のモラルについて、放し飼いや放置便などいくつかの問題が明らかとされた。両市における犬猫の正しい飼養についての情報の伝達、指導、啓蒙活動などが不足している可能性を指摘した。

1. はじめに

近年のペットブーム等を背景に十分な知識のないまま安易に動物の飼養を開始し、不適切管理、飼養放棄や鳴

連絡先：内川隆一 ruchikawa@cis.ac.jp

1) 千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科
Department of Animal Risk Management, Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba Institute of Science

2) 千葉科学大学薬学部動物生命薬科学科
Department of Animal Pharmaceutical Science, Faculty of Pharmacy, Chiba Institute of Science

(2013年9月24日受付, 2013年12月3日受理)

き声、糞尿放置、悪臭などにより近隣とのトラブル発生が全国的に後を絶たない。さらに、犬の狂犬病予防注射接種率の低下や未登録、放し飼いや野良犬・野良猫への無責任な餌やりが各地で問題となっている。こうした問題を解決するためには、飼い主に対する啓発活動や学校教育を通じた普及啓発活動が必要不可欠とされているが、現実には困難な点も多い。

犬猫の殺処分数は全国的に年々減少の一途をたどっているものの、平成23年度には全国で犬猫の行政収容数が234,825頭であり、そのうち犬44,882頭、猫138,559頭が行政処分(殺処分)された¹⁾。茨城県では犬の収容数(4,408頭)および殺処分数(3,334頭)が全国ワースト1

位であり、県動物指導センターでは「全国ワースト1脱却宣言」のキャンペーンを実施している。千葉県では犬の譲渡数(1,628頭)では全国最多であるにもかかわらず、犬の収容数(3,468頭)と猫の殺処分数がそれぞれ全国ワースト4位と8位であった¹⁾。

このような状況の中、我々は千葉県銚子市および茨城県神栖市内におけるペット飼養の実態並びに飼育者の意識を知る目的で、小・中・高等学校の学童・生徒を対象とした「ヒトとペットに関するアンケート」を実施した。本報では野良犬・野良猫の現状と飼い主のモラルを中心に、その調査結果を報告する。

2. 調査方法

前報²⁾に示した通り、両市の教育委員会の協力のもと、平成23および24年の6月から7月に千葉県銚子市内および茨城県神栖市内の学校に通う小学校5年生、中学校2年生、高校2年生を対象として「ヒトとペットに関するアンケート」を実施した。

3. 結果および考察

3. 1 野良犬・野良猫の現状

千葉県の調査では野良犬を見たことのある人の割合は20%未満であり、人口集中地区では見たことがない人が約48%に達していた。また県西部で少なく、中央、東地域では見たことのある人が多かった³⁾。銚子市における平成20年度の捕獲・保護犬数は116頭であったが、隣接する東庄町(82頭)と香取市(251頭)を加えると455頭となり千葉県全体の13.2%にあたる⁴⁾。一方、茨城県での平成21年度捕獲・保護犬数は4,958頭であり、神栖市ではその9.5%に達する473頭が捕獲・保護された⁵⁾。すなわち、利根川河口地域両岸で900頭以上の犬が保護・捕獲されていたことになる。

「家の近くで野良犬・野良猫を見たことがありますか」

銚子市および神栖市の全ての学年において92%以上の学童・生徒が野良犬・野良猫を見たことがあり、さらに44%は「よく見る」と回答した。また両市ともに「見たことがない」と答えたのは8%以下であり、その割合は学年が進むにつれて減少していた(表1)。

高校生についてその居住地別に集計したところ、ほぼ

全て高校生が野良犬・野良猫を見たことがあると回答し、「よく見る」と回答した人は神栖市(63.3%)、銚子市(58.0%)であった。その他の地域でも「よく見る」と答えた人の割合は、香取市(89.3%)、匝瑳市(77.8%)、鹿嶋市(70.0%)、旭市(59.8%)、東庄町(54.2%)などであり、利根川河口地域では広く野良犬・野良猫が頻繁に目撃されていることが明らかとなった。

野良犬と野良猫のどちらを見るか尋ねたところ、「両方」と答えた人が最も多く、銚子市では6割以上、神栖市では4割以上であった。しかし、「犬のみ」と答えた人が銚子市では5%以下であったのに対し、神栖市では37%以上と多く、逆に「猫のみ」と答えた人は銚子市では25%以上であったが、神栖市では9%以下に止まった。(図1)。これら結果は、神栖市では野良犬がより目につくのに対して、銚子市においては野良猫がより目立っていることを示している。一般に野良猫は人口密集地に多く見られる傾向がある。両市における違いは環境の違いが反映されている可能性があるが、市内における野良犬・野良猫の分布は一樣では無いことが容易に予想される。今後、

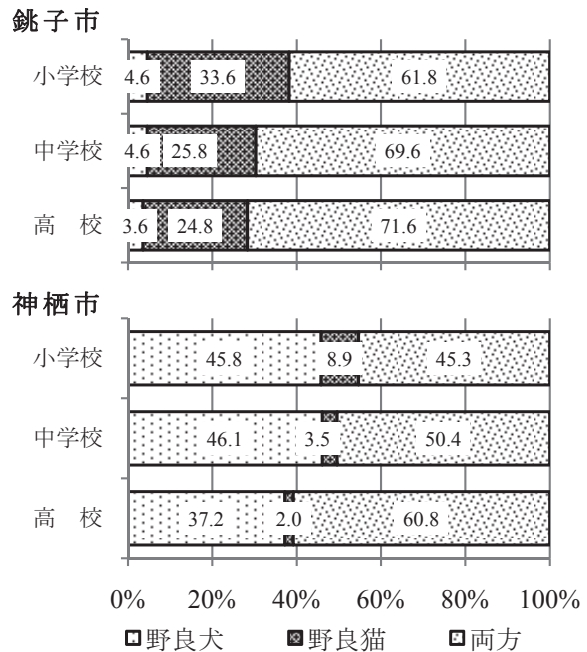


図1 野良犬・野良猫のどちらを見ますか

表1 家の近くで野良犬・野良猫を見たことがありますか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
はい	92.3	96.3	98.3	93.4	95.4	96.3
よく見る	44.4	53.2	46.5	47.4	51.9	60.0
いいえ	7.7	3.7	1.7	6.6	4.6	3.7

両市内における詳細な調査研究が必要である。

具体的な目撃頻度について、両市ともに39.6～52.3%の人が野良犬を、40.3～53.6%の人が野良猫を「週2～3回以上見た」と回答した。「週に1回見た」という回答と合わせると、銚子市では60%～70%、神栖市では65%～80%の人が野良犬・野良猫を毎週目撃していることになる。

「野良犬や野良猫についてどう思いますか」

得られた回答を4つのカテゴリーに別けて集計した結果を図2に示した。すべての学年において、「可哀そう」、「どうにかしてあげたい」、「心配である」などの同情する回答が多く、50%を越えていた。次いで、「怖い」、「危険」、「汚い」、「嫌い」などの迷惑である、特に何も思わないの順であった。一方、飼い主の責任を問う回答は10%以下であった。銚子市および神栖市において、野良犬・野良猫が多く存在し、学童・生徒のほとんどが日常的に目撃していることが明らかとなった。そのためか、野良犬・野良猫に対する学童・生徒の興味・関心が年齢とともに減少する傾向が認められた。このような年齢に伴う意識の変化が成人にも及び、地域全体として野良犬・野良猫に対する関心の低下や飼い主のモラル低下の原因になっている可能性がある。

千葉県的一般住民を対象とした調査では、野良犬を見かけたことのある人の割合は18.4%であり、39.6%の人が見たことが無いと回答した³⁾。一方、熊本県的一般住民を対象としたアンケート調査では、「放し飼いや飼い主

が不明の犬および猫を見かけたことがありますか」という質問に対し「ほとんど見かけない」が最も多く84.5%、次いで「たまに見かける」が11.6%であった⁶⁾。平成23年度の熊本県の犬猫殺処分数は4,573頭であり、茨城県(6,126頭)、千葉県(5,670)頭と比べて1,000～1,500頭も少なかった¹⁾。今回の調査結果は、銚子市・神栖市における野良犬・野良猫が非常に多いことを示すものであり、今後両市における早急な対策が望まれる。

今回の調査では成人に対するアンケート調査を実施していないが、銚子市における学童・生徒の目撃情報に比べ、千葉県の一般住民の目撃頻度³⁾は明らかに低いものであった。その原因の一つとして前述の様な地域差が考えられる。また、成人と学童・生徒では居住地周辺における活動時間帯、活動内容、移動手段などに違いがあることも予想される。今後、両市における成人を対象とした新たな調査が望まれる。

3. 2 野良犬・野良猫による被害

野良犬・野良猫による鳴き声、糞尿、悪臭による被害が全国的に多発している。一般住民を対象とした調査では、茨城県全体の40.3%、神栖市の52.1%⁷⁾が、千葉県の47.8%³⁾迷惑していると回答し、その内容は糞尿、鳴き声、畑荒らしなどであった。

「野良犬・野良猫に迷惑していることはありますか」

銚子市では24.6～30.5%、神栖市では29.6～33.3%の学童・生徒が野良犬または野良猫に迷惑していると回

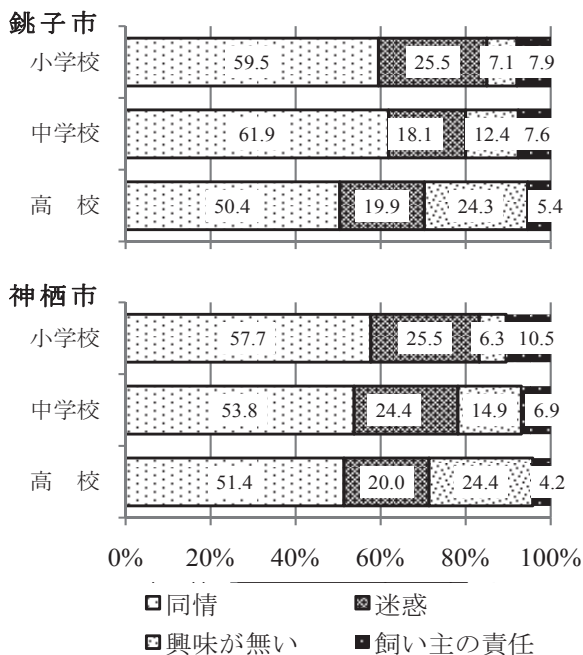


図2 野良犬・野良猫についてどう思いますか

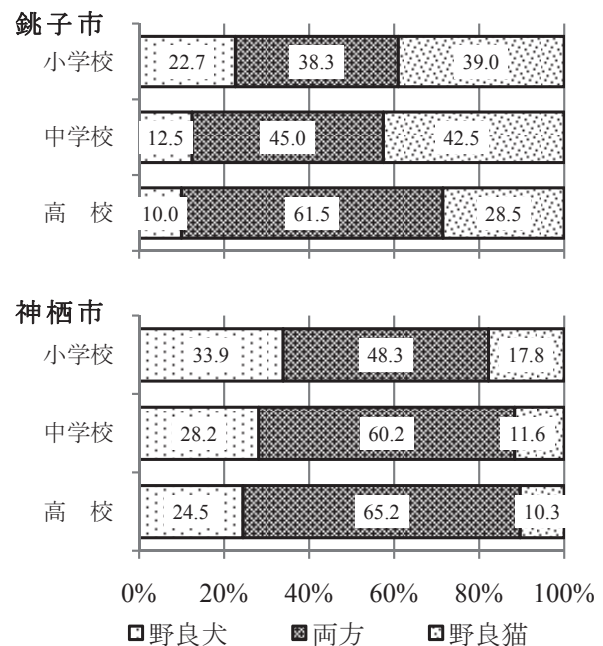


図3 野良犬・野良猫のどちらに迷惑していますか

答し、その割合は千葉県、茨城県的一般住民に比べて低かった。野良犬と野良猫のどちらに迷惑しているかを図3に示した。両市ともに「両方」と答えた人が最も多かった。銚子市では「犬だけ」よりも「猫だけ」に迷惑している人が多く、逆に神栖市では「犬だけ」に迷惑している人が多かった。「両方」と答えた人を合わせると、神栖市における迷惑の原因は82%以上が犬、66%以上が猫によるものであり、逆に銚子市では、77%以上が猫、67%以上が犬によるものであった。これらは図2に示した目撃情報と一致していた。

具体的にどのようなことに対して迷惑しているかを尋ねたところ、両市ともに「鳴き声」に迷惑している人が1/3程度と最も多く、次いで「糞」「尿」、「悪臭」の順であった(表2)。その他には「ペットの被害」、「家の中に入ってくる」、「ゴミを荒らす」などの回答があった。これら内容は茨城県における一般住民を対象とした調査と一致していた⁶⁾。

「野良犬・野良猫に嫌なことをされたことがありますか」

銚子市の23%、神栖市の1/3の学童・生徒が野良犬・野良猫に嫌なことをされた経験があった(表3)。実際に被害を受けた学童・生徒の中で神栖市では91~98%が、銚子市では77~89%が「犬」あるいは「両方」に嫌なことをされたと回答し、多くは犬による被害であった。猫による被害も銚子市で56~61%、神栖市で54~63%達した(図4)。

具体的に野良犬・野良猫にどのようなことをされた経験があるかを尋ねたところ、野良犬による被害は、両市とも「追いかけられた」がほぼ半数で最も多く、以下「威嚇された」、「咬まれた」、「引っ掻かれた」の順に多く、学年による大きな違いは見られなかった(表4)。「一方、野良猫による被害については、「追いかけられた」、「威嚇された」および「引っ掻かれた」が上位を占めていた。猫の特性から身体的被害について引っ掻かれた経験を持つ人が多く、学年が低いほど被害の割合が高かった(表5)。身体被害を受けた学童・生徒の割合は全体の3.6~7.6%(野良犬)、5.5~12.6%(野良猫)にも達した。咬まれたり、引っ掻かれたりすることは、人への身体的危害であるばかりか、感染症にかかる恐れもあるため社会的問題として取り上げられるべきである。

「近所の飼い犬や飼い猫からケガをさせられたり、怖い思いをさせられたりしたことがありますか」

両市ともにほぼ1/3の学童・生徒が「はい」と回答した。茨城県的一般住民においても34%の人が、他人の飼養している犬猫で被害を受けたことがあると回答した⁷⁾。個々の事例について詳しい状況は不明であるが、飼い主の不適切な飼養管理あるいは被害者の誤った動物への接し方が原因となっているものと思われる。

表2 野良犬・野良猫のどんなことに迷惑していますか

	銚子市 (%)		神栖市 (%)	
	犬	猫	犬	猫
鳴き声	34.5	33.2	36.0	36.7
糞	29.3	32.7	30.4	31.4
尿	11.2	10.2	12.1	11.4
悪臭	8.6	9.7	9.7	9.2
その他	16.4	14.1	11.8	11.4

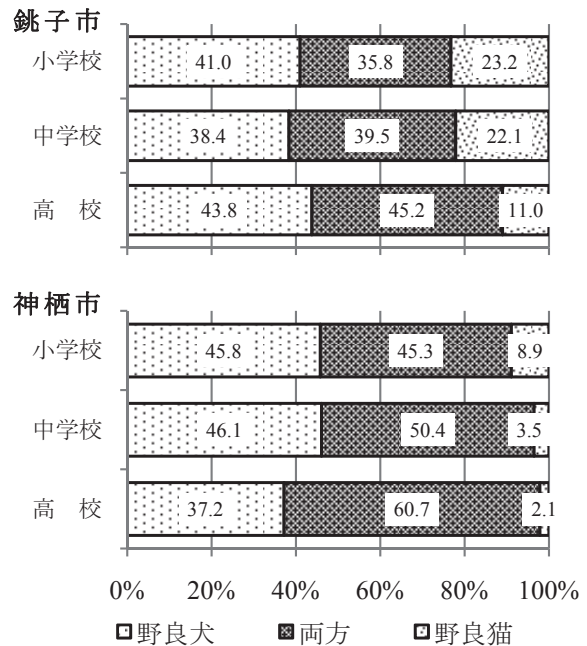


図4 野良犬野良猫のどちらにいやなことをされましたか

表3 野良犬・野良猫に嫌なことをされたことがありますか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
はい	23.4	23.8	23.1	35.6	33.0	35.0
いいえ	76.6	76.2	76.9	64.4	67.0	65.0

「野良犬・野良猫を今後どうしてほしいと思いますか」

「無くしてほしい」と答えた人が最も多く半数を越えていた。しかし両市に野良犬・野良猫が多く存在するにもかかわらず、「このままでよい」と「興味がない」という回答が銚子市では19～40%、神栖市では31～38%あり、学年が進むにつれてその割合が増加していた(図5)。その他には「飼い主を探す」、「施設を作る」、「殺さないで欲しい」という回答もみられた。これら結果は、両市

においては野良犬・野良猫が頻繁に見受けられるために、その存在が日常生活の中で受け入れられ、気にならなくなっている可能性がある。学童・生徒だけではなく、一般市民にも野良犬・野良猫の存在自体が望ましいことではなく、人と犬猫の幸福のためには無くすための努力がはらわれるべきであることを周知することが必要である。その為には、自治体と教育機関等との協調的対応が望まれる。

3. 3 野良犬・野良猫の原因

野良犬・野良猫が無くならない原因として、放し飼い、不妊・去勢手術の不徹底、飼育放棄(ネグレクト)、無責任な餌やりなどが多くの場で指摘されている。平成25年9月1日から施行された「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」によりペットの飼い主に対して『終生飼養するという』責任が明文化され、自治体が保護または引き取った犬猫は飼い主に返還、あるいは新しい飼い主に譲渡する努力が義務付けられた。

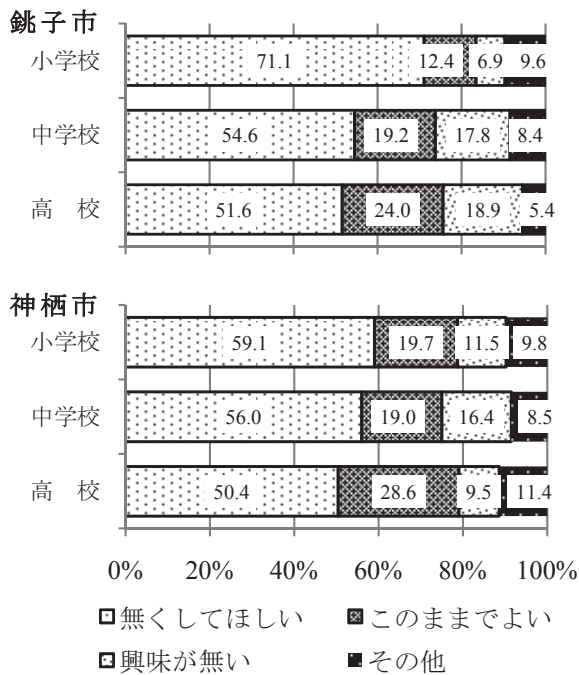


図5 野良犬・野良猫を今後どうしてほしいと思いますか

「野良犬・野良猫がいる原因はなんだと思いますか」

すべての学年で80%以上の学童・生徒が、犬猫を捨てる人がいることを原因とした。次いで「自然なことであるから」との回答が多く、学年が進むにつれて増加した。「餌をあげる人がいるから」と答えたのは少なく、両市とも4～10%程度であった(図6)。

その他には、「責任を持って飼わない人がいるから」、「鎖等がしっかりしてないから」、「近くの飼い猫が集まってくるから」などの回答があった。野良犬・野良猫がいることが自然なことであり、このままでよい(図5)と捉えている学童・生徒が多く存在したことは驚きであり、今後この様な認識を改めてもらうための施策が必要である。

表4 野良犬にどのような嫌なことをされましたか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
追いかけられた	49.7	50.5	48.6	46.4	49.3	51.2
威嚇された	29.1	25.0	23.6	27.1	27.4	33.1
咬まれた	8.5	9.5	9.8	10.9	10.8	8.4
引っ搔かれた	6.9	9.5	11.5	10.4	5.8	4.9
その他	5.8	5.5	6.5	5.2	6.7	2.4

表5 野良猫にどのような嫌なことをされましたか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
追いかけられた	25.2	35.7	41.3	33.2	41.0	47.6
威嚇された	17.3	18.6	21.9	21.9	24.6	31.1
咬まれた	7.9	5.7	13.5	10.5	11.7	6.1
引っ搔かれた	24.4	17.9	10.3	24.9	14.5	10.4
その他	25.2	22.1	13.0	9.5	8.2	4.8

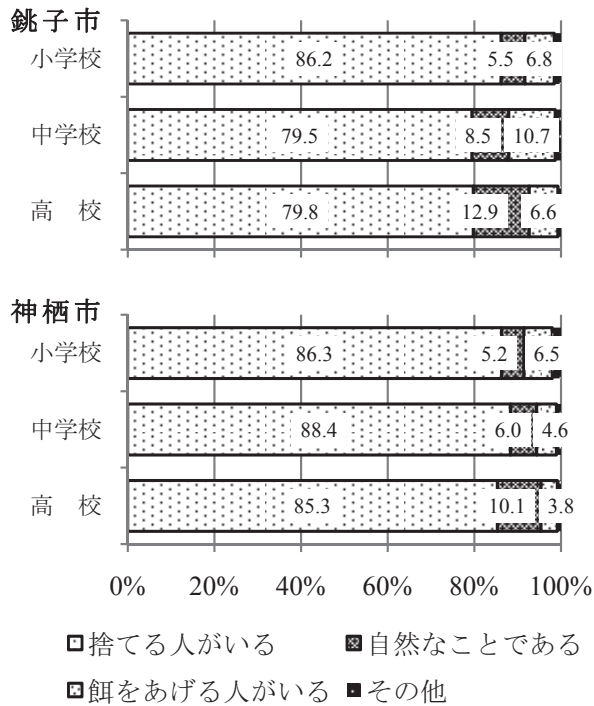


図6 野良犬・野良猫がいる原因はなんだと思いますか

「ペットを捨てたり、ケガをさせたりすると法律で罰せられることを知っていますか」

知っていると回答した学童・生徒は両市ともにほぼ半数であった。ペットの有無による法律の認識の違いを図7に示した。ペットを飼養している人での認知度はやや高いものの大きな違いは見られなかった。また、学年による違いは認められなかった。しかし、これら結果は茨城県の一般住民における認知度(75%以上)に比べて低かった⁶⁾。今後、野良犬・野良猫を減らすためには、今回の法改正によりペットの殺傷には「二年以下の懲役又は二百万円以下の罰金」、ネグレクトには「百万円以下の罰金」と罰則が強化されたことを含めて、動物の虐待、遺棄、ネグレクトは犯罪であることを学童・生徒に対しても周知させる重要であると思われる。

「野良犬や野良猫に餌をあげているところを見たことがありますか」

野良犬・野良猫が減らない一つの要因とされている「無責任な餌やり」について、鉾子市・神栖市ともにほぼ半数の学童・生徒(45.0～59.1%)が目撃していた。鉾子市では猫に餌をあげる事例が多く、90%以上の人が目撃していた。一方神栖市では、犬に対する餌やりがやや多く目撃されていた(図8)。実際に餌として与えられていたものを尋ねると、ペットフード(21.2～31.4%)とパン(19.9～32.0%)が最も多く、次いでお菓子(11.5～15.9%)、

残飯(10.9～16.6%)、牛乳(8.5～13.0%)の順であった。自ら野良犬や野良猫にエサをあげたことがあるか尋ねたところ、両市ともに、約20%(18.6～21.6%)の学童・生徒が「あげたことがある」と回答した。

千葉県の調査では、半数以上の人野良猫への餌やりを見かけており、人口集中地区でより多く見られた²⁾。一般にどの地域においても、餌の量とねぐらとして使用できる空間量による野良犬・野良猫の収容能力があり、

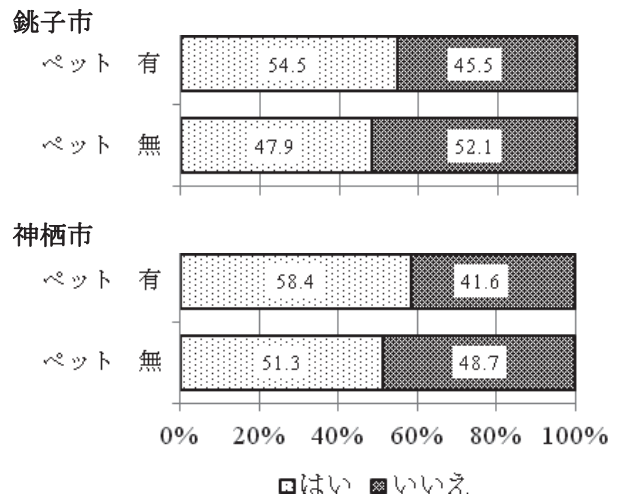


図7 ペットを捨てたり、ケガをさせたりすると法律で罰せられることを知っていますか

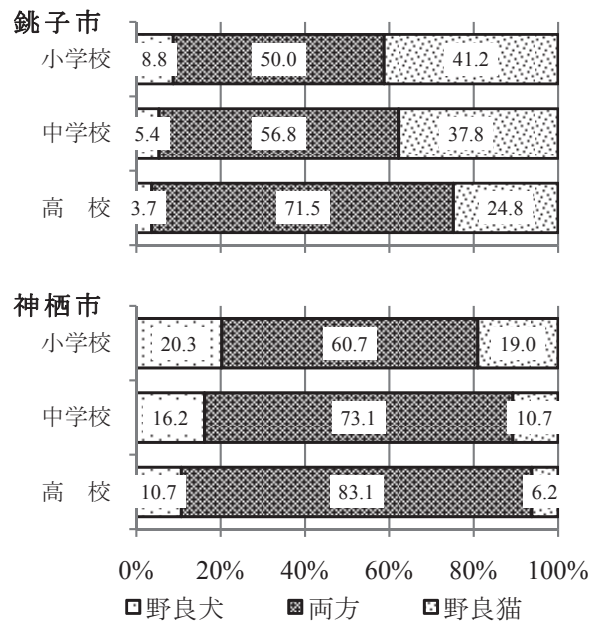


図8 野良犬・野良猫のどちらに餌をあげている人を見たことがありますか

その収容能力まで増え続けることが知られている。この収容能力を下げる一つの方法として徹底した清掃と餌となる食料の減少が重要である^{8,9)}。餌やりのほかに銚子市・神栖市には多くの空き地、荒れ地が存在してゴミの不法投棄も多いため、野良犬・野良猫の生息可能空間が多い。しかし、空き地、荒れ地の清掃と適切なおみ処理、無責任な餌やりの排除、不妊・去勢手術の推奨を徹底的に行うことによりそれらを減少させる可能性は大いにあるものと思われる。

3. 4 野良犬・野良猫の処分・対策

「県の動物センターに連れてこられた動物の多くが、殺処分されていることを知っていますか」

銚子市・神栖市ともに小学生の62.7%以上、中学生の75.4%以上、高校生では80.1%以上が「知っている」と回答した。一日にどのくらいの数の動物が、全国のセンターで殺処分されているかを尋ねると、銚子市・神栖市

のすべての学年で「1～500匹」の回答が多く50%を超えた。平成23年度の犬猫殺処分数は183,441匹であり¹⁾、この質問で選択されるべき「501～1000匹」を回答したのは、22～30%であった(表6)。

千葉県と茨城県の両方で年間にどれくらいの数の犬や猫が殺処分されているかについての回答を表7に示した。平成23年度の犬猫合計殺処分数は、千葉県5,670匹、茨城県6,126匹であり¹⁾、ここで選択されるべきは「1万～1万5千匹」であり、正しい認識を持っていたのは1/4程度であった。両県における処分数は全国で殺処分される犬猫の6.4%に及ぶ。

「たくさんの犬猫が殺処分されていることをどのように思いますか」

両市ともに「かわいそう」、「仕方がない」、「興味が無い」の順であった。銚子市では、ほぼ70%の学童・生徒が「かわいそう」と回答し、次いで「仕方がない」が13～

表6 一日にどのくらいの数の動物が全国のセンターで殺処分されていると思いますか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
0頭	0.7	0.7	0.8	1.2	1.4	2.1
1～500頭	56.7	51.1	65.9	58.7	55.1	63.1
501～1,000頭	30.3	29.7	22.9	25.9	28.9	24.9
1,001頭以上	12.3	18.5	10.4	14.2	14.6	9.9

■, 文献1による正解を示す。

表7 千葉県と茨城県の両方で年間にどれくらいの数の犬や猫が殺処分されていると思いますか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
1,000以下	10.9	8.6	10.0	9.9	8.6	8.2
1,000～5,000	14.2	17.2	18.4	15.5	15.4	19.0
5,001～10,000	24.7	27.6	30.2	22.9	24.5	22.0
10,001～15,000	26.1	27.2	22.2	29.3	26.6	29.9
15,000以上	24.1	19.4	19.2	22.4	24.9	20.9

■, 文献1による正解を示す。

表8 多くの犬猫が殺処分されていることをどのように思いますか

	銚子市 (%)			神栖市 (%)		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
可哀そう	79.8	71.0	74.1	78.0	68.1	55.7
仕方が無い	13.0	15.5	15.5	11.4	13.5	23.4
もっとやるべきだ	1.2	2.2	0.9	2.1	3.2	1.4
興味が無い	3.5	7.3	4.8	4.3	8.6	14.2
その他	2.5	4.1	4.6	4.3	6.5	5.3

15%であった。一方神栖市では、「かわいそう」と答えた人が学年とともに減少し、高校生では半数以下であり、逆に「仕方がない」と答えた人が年齢とともに増加し、高校生の23%に達した。これら結果は、犬猫の殺処分に対する両市間、特に高校生間において何らかの意識の違いがあることを示しているのかもしれない。

3.5 飼い主のモラルについて

近年全国的に飼い主のモラル低下が指摘され、放し飼い、放置便など多くの近隣トラブルが報告されている。一般住民における散歩時の犬のリード使用率は、千葉県(82.7)、茨城県(88.8%)に達し、付けていない人の割合は千葉県2.4%、茨城県2.6%と低かった。しかし、散歩中のペットの糞の処理については、持って帰る人の割合が千葉県では77.8%であったのに対して茨城県では43.1%と低く、その場に埋める人が52.6%に上った^{3,7)}。これらは糞処理について地域的な習慣の違いを示すものと思われる。また放置便の多くが飼い犬によるものであるとの指摘もある。

「ペットをどこで飼っていますか」

両市とも室内飼いと屋外飼いはほぼ同数であり、多頭飼育の家庭では室内飼いと屋外飼いの両方がいるという回答が見うけられたが、学年による大きな違いは認められなかった。割合は少ないものの両市ともに2.3%の全学童・生徒が放し飼いをしていると回答した。これを実数で表すと少なくとも銚子市で21軒、神栖市では31軒の家庭でペットが放し飼いされていることになる。放し飼いをしていると答えた人の不妊・去勢手術の有無を見ると、両市とも半数以上(51.6、52.4%)のペットが不妊・去勢手術を施されていないことが明らかとなった。

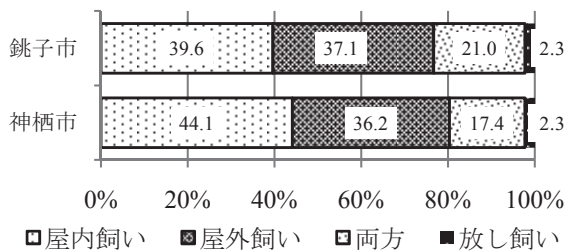


図9 ペットをどこで飼っていますか

「散歩中にヒモやクサリで繋がれていないペットを見たことがありますか」

自分がペットと散歩する時にヒモや鎖で繋いでいるとの回答が54.1~71.8%程度見られたが、「繋いでいない」と答えた学童・生徒は4.7~9.5%であり、学年による違

いは認められなかった。一方、両市ともに、21%以上の学童・生徒が繋がれないまま散歩しているペットを「よく見る」と回答している。さらに「たまに見る」人を加えると7割以上の人々が頻繁に目撃していることになる。千葉県、茨城県ともに散歩時のリード利用率が80%を越えている^{3,7)}にもかかわらず、一部のリードを使用していない人達が繰り返し、多く目撃されている可能性がある。

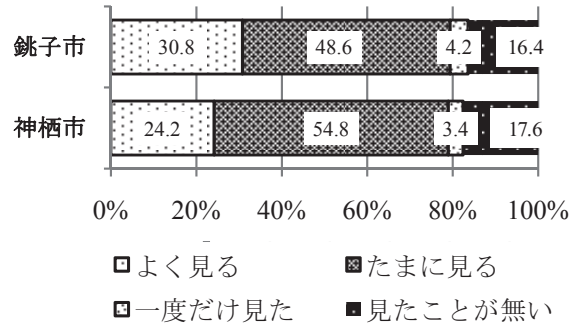


図10 散歩中にヒモやクサリで繋がれていないペットを見たことがありますか

「道や公園に落ちている犬や猫の糞を見たことはありますか」

いわゆる放置便に関して、両市ともに半数以上の学童・生徒が「よく見る」と回答し、「たまに見る」と合わせるとその割合は実に95%近くになった。散歩の際にペットがした糞の処理を尋ねたところ、「持って帰る」と回答した人は学年が進むにつれて減少し、高校生では銚子市の34.3%、神栖市の18.5%だけであった。逆に両市ともに「何もしない」あるいは「土に埋める」との回答は年齢が進むにつれて増加していた。これらは学年が進むにつれてモラルの低下が起こっていることを示している。また、空き地、畑などが多く見られる両市においても糞を土に埋めることが習慣として残っている可能性があるが、家に持ち帰り、処理するように指導を行う必要がある。散歩時の尿の処理については、両市ともにすべての学年で「何もしない」との回答が6割以上を占め、その割合は学年が進むにつれて増加していた。尿処理についても、水を用意して尿を流す等の指導が必要である。

今回調査でも、放置便に関して多くの人は迷惑であると回答しており、銚子、神栖両市における飼い主モラルは高いものとは言い難い現状にある。また前の設問に対する回答結果から、本人の行動として、幼い時に適切な糞尿処理をしていた人も、学年が進むにつれて処理をしなくなり自ら糞害の原因となっている様子が見えてくる。

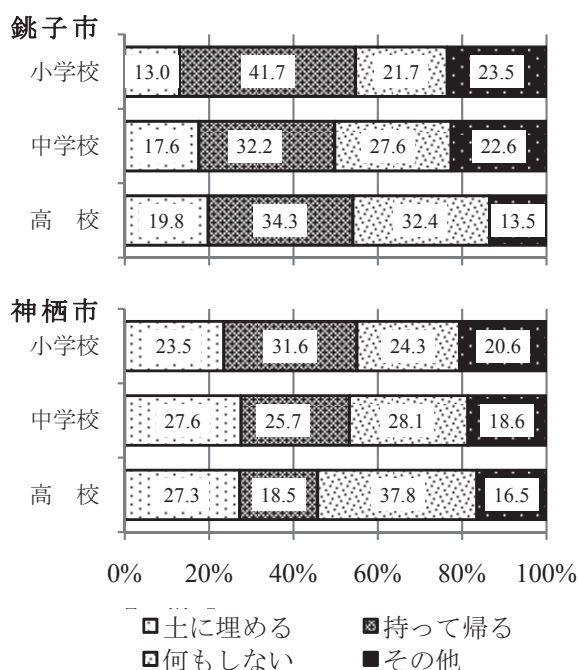


図11 散歩中にペットがした糞や尿は、どうしていますか

4. おわりに

今回調査で、銚子市・神栖市には野良犬・野良猫が多く存在すること、銚子市では野良猫が、神栖市では野良犬がより頻繁に目撃され、被害も大きいことが明らかとなった。また、野良犬・野良猫が見慣れたものであり、珍しいものではなくなっているためか、学童・生徒のそれらに対する興味・関心が年齢とともに減少する傾向が認められた。同じような傾向が一般市民において更に進むとすれば、野良犬・野良猫対策を講じる上で大きな障害となることが予想される。学童・生徒の半数が頻繁に野良犬・野良猫を目撃し、その1/4以上が嫌なことをされた経験を持っていた。これら現実を深刻に認識して、野良犬・野良猫対策を講じることが清潔で安全な街づくりには欠かせない。「放し飼い・野良犬・野良猫はもう許さない」といった地域住民の意識改革が必要となると思われる。

全国的に見ても千葉県及び茨城県は犬猫の収容数、殺処分数は常に上位を占めており、その中でも利根川河口域に面した銚子市および神栖市とその周辺は県内でも犬猫の収容数が多い地域である。収容された動物の多くは殺処分されていることを多くの学童・生徒は知っていた。しかし、身の回りで実際に処分される犬猫の数を正確に認識している人の割合は低く、具体的な情報として十分に伝わっていなかった。

放し飼いや放置便などいくつかの問題が指摘され、両市における飼い主のモラルに問題があると言わざるを得

ない。両市における犬猫の正しい飼養についての情報の伝達、指導、啓蒙などが不足している可能性が示された。

今後、両市での野良犬・野良猫の実情と保護・捕獲頭数などの情報を学童・生徒のみならず一般住民にも伝えることが重要である。動物愛護に関する住民の意識、特に犬や猫に対する意識は、その地域における住民の公共性やモラルのレベルと対応しているといわれ、犯罪、交通違反、不法投棄などと同等に社会問題として扱われるべきものである。野良犬・野良猫対策についても住民の意識改革が重要であり、今後、両市において行政と教育機関、一般住人が一体となった更なる現状把握と施策が望まれる。

謝辞

今回の調査実施に当たって御尽力頂いた銚子市教育委員会、神栖市教育委員会、神栖市役所環境課の各位に感謝いたします。また、直接アンケート記入を御指導頂いた銚子市および神栖市内の小学校・中学校・高等学校の先生方の御協力により予想以上の規模で調査が実施できたことはうれしい限りであり、ここに関係各位に深謝いたします。

本研究の一部は平成23年度公益社団法人日本愛玩動物協会研究助成「家庭動物の適正飼養管理に関する調査」および平成平成24年度千葉科学大学教育研究経費「銚子市および神栖市の小・中・高校生のペット飼養に対する意識調査」の援助を受けて行われた。

参考文献

- 1) 地球生物会議ALIVE：全国動物行政アンケート結果報告書 平成23年度版. ALIVE資料集, No. 33, 80pp. 2013.
- 2) 内川隆一, 市川真衣, 河野真友他: 銚子市および神栖市の小・中・高校生のペット飼養に対する意識調査－I－ペットの飼養状況について－. 千葉科学大学紀要, 第7号, 77～86, 2014.
- 3) 千葉県健康福祉部衛生指導課：犬猫の飼養実態調査結果について. 2009, http://www.pref.chiba.lg.jp/eishi/toukeidata/koyou/documents/shiyoujittai_kekka.pdf, (2013-08-25).
- 4) 千葉県動物愛護センター：統計資料. 2008.
- 5) 茨城県動物指導センター：資料. 2009
- 6) 熊本県健康福祉部健康危機管理課：熊本県動物飼養実態調査業務 -報告書-. 2009, <http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/32490.pdf>, (2013-09-3).
- 7) 茨城県保健福祉部生活衛生課：犬猫の飼養実態等調査業務 犬の飼養実態アンケート調査結果報告. 77pp, 2010.
- 8) WSPA 訳者, 林裕美子：野良犬対策 野良犬をなくすための実用ガイド. 59pp, 1990, <http://www.miyazaki-ombuds2.org/dogs.pdf>, (2013-09-3).
- 9) WSPA 訳者, 林裕美子：猫の飼い方と繁殖対策 飼い猫、野良猫の取り扱い実用ガイド 改訂版. 60pp, 2001, <http://www.miyazaki-ombuds2.org/cats.pdf>, (2013-09-3).